

言葉にささえられて

政治に対峙する文学の世界

廣木 寧

「人は、言葉にささえられて生きています。
日本人は、国語にささえられて生きています。」

▼著者が長年にわたり、文学に親しむ暮らしの中で募らせてきた危機感をもとに、今日の学問や日本文化の在り方に警鐘を鳴らした圧巻の文芸、文化評論。▼問題は、夏目漱石、森鷗外、小林秀雄、江藤淳など、近現代の文豪たちの作品をとおして巧みに浮き彫りにされる。▼ここでは、政治に翻弄されながらも、文学を原点として今後の日本を見とおす著者の鋭い洞察力が縦横無尽に展開されていく。

廣木 寧

言葉にささえられて

政治に対峙する文学の世界

「人は、言葉にささえられて生きています。
日本人は、国語にささえられて生きています。」

著者が長年にわたり、文学に親しむ暮らしの中で募らせてきた危機感をもとに、今日の学問や日本文化の在り方に警鐘を鳴らした圧巻の文芸、文化評論。問題は、夏目漱石、森鷗外、小林秀雄、江藤淳など、近現代の文豪たちの作品をとおして巧みに浮き彫りにされる。ここでは、政治に翻弄されながらも、文学を原点として今後の日本を見とおす著者の鋭い洞察力が縦横無尽に展開されていく。

夢の友出版

A5判・ソフトカバー

本文 388 頁

定価 (本体 1,800 円 + 税)

ISBN978-4-906767-05-2 C0095

(2020年3月20日 発売)

*お求めは、ネット書店又はお近くの書店にお申し込みください。

発行 (株) 夢の友出版

東京都新宿区白銀町 6-1-812 (〒162-0816)

電話・fax 03-3266-1075

URL : <http://yume-tomo-editorial.com/>

【目次】

●夏目漱石

漱石の文学と私

「文化の戦士」としての夏目漱石

漱石の「明治天皇奉悼之辞」について

続・漱石の「明治天皇奉悼之辞」について

●森鷗外

立派な父と不良の息子の物語・『澀江抽斎』を読んでⅠ

鷗外の涙・『澀江抽斎』を読んでⅡ

●小林秀雄と江藤淳

小林秀雄と江藤淳

歌枕・松尾芭蕉と小林秀雄

小林秀雄「歴史の魂」と「無常といふ事」

昭和五十二年秋の満開

鏡としての歴史

歌碑と独立樹・斎藤茂吉と小林秀雄

言葉と歴史と検閲・江藤淳の批評について

家族とその死・江藤淳生涯の末二年の文業と永井龍男の文学

●遠い人近い人

『博多っ子純情』

詩と哲学の奪回を

下田踏海事件・「与力輩愕々色を失ふ」

「互殺の和」

遠い人近い人・安達二十三陸軍中將

見え隠れする全体主義

新「サツカー」考・「死力を尽くした」

西へ西へ・ラフカディオ・ハーンの来日

「わたしを連れて逃げて」・レコード大賞と直木賞

言葉にささえられて

あとがき

（「あとがき」抄）

本書には長いものも短いものも収められているが、文の長短によって書くほうの身の入れ方がかわるわけではない。そういう意味では本書に収めた文はどれにも愛着があつて何ら軽重はないのだが、「続・漱石の『明治天皇奉悼之辞』について」、「鷗外の涙」、「家族とその死」の三本は書きたい衝動にかられて集注して書いた。鷗外は、齢を重ねるごとに愛着が増す。殊に史伝に魅かれること尋常でない。鷗外の史伝には人生の秘密があらわに表れているように思われる。

それから、「言葉にささえられて」は、人にとって言葉とはなにか、という年来のテーマを文章にしてみたものである。講演でもその一部は話したことがある。

長いものでも短いものでも、一読して、ああ、生きるということとは、こういうことか、と感じてもらえれば、書き手の意図は達したも同然である。

（中略）

日本を取り巻く世界はかくのごときもので、日々変転する政治現実から目が離せない。個人が生きるの死ぬのといった文学の世迷い事の話に耳をかしている時間もスペースも今のジャーナリズムにはないようである。文学はノーベル賞以外になきがごとくである。文学は無用の長物となったかのようである。そうかも知れない。だが、これは新しい事態ではない。芭蕉は、「予が風雅は夏炉冬扇のごとし。衆にさかひて用る所なし」（「許六離別詞」元禄六年）と門弟を諭している。ただ芭蕉は、世の「あはれなる所」から眼が離せなかった人である。文学の「細き一筋をたどりうしなふ事なかれ」と精進した人である。これは文学の正道である。文学は政治がたどれない別の道で、世の人のために存在し、人の生きる意味を明らかにするのである。

■著者プロフィール

廣木 寧（ひろき・やすし）

昭和二十九年（一九五四）福岡生まれ。九州大学卒。学生時代、二度（霧島、阿蘇）にわたり、小林秀雄の講義を聴く機会があり、感銘を受ける。

著作に、『江藤淳氏の批評とアメリカ・「アメリカと私」をめぐって』（慧文社）、『小林秀雄と夏目漱石・その経験主義と内発的生』（総和社）、『天下なんぞ狂える・夏目漱石の「こころ」をめぐって（上・下）』（慧文社）などがあり、共著に『日本の偉人一〇〇人（上・下）』（致知出版社）、『郷土福岡の偉人』（寺子屋モデル）などがある。

現在は（株）寺子屋モデル勤務。